

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0970101861		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	今泉ケアセンターそよ風		
所在地	栃木県宇都宮市中今泉4-22-1 (電話) 028-613-5781		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年7月27日	評価確定日	平成19年9月13日

【情報提供票より】(平成19年7月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人	常勤5人(うち兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算6.4人	
	7 人	常勤3人(うち兼務1人), 非常勤4人, 常勤換算6.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての2階建て部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代-実費 ・おむつ代-実費 ・嗜好品等
敷金	有(126,000円)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(500,000円)	有りの場合償却の有無	有(期間:4年間)
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年7月2日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人康積会 柴病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(株)メデカジャパンは、埼玉県に本部があり、全国22都道府県105箇所に各種の事業所を展開している。社長の母が要介護状態になったのをきっかけに、地域のお年寄りに何かのお手伝いをさせていたきたいと、始まったのが成り立ちである。「そよ風」は、認知症対応型共同生活介護事業所が県内に3ヶ所あり、連携をとっている。「ゆったりと楽しく自由に、その人らしくあたりまえの生活が出来るよう支援していく」、「目くばり、気くばり、心くばり」と笑顔で入居者本位のケアサービスに努める」を運営理念にしている。お風呂の好きな入居者が多く、ほとんどの方が毎日入浴している。近隣には、学校や図書館、コミュニティセンターや住宅があり、近くに川が流れ、公園もある。暑い時と寒い時を除いて毎日のように40分位散歩をし、地域の婦人部の方にお茶をご馳走になったり、踊りを披露していただくなど交流を図っている。5周年のイベントで内覧会を行い盛況であった。運営推進会議も2ヶ月毎に開催され、益々地域との交流が盛んなホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	徐々に取り組んでいるが、玄関周りの表札は入居者に書いていただくよう依頼している。入居者のペースの尊重は、声かけし希望を聞きながら支援している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員から意見を募り、それをユニットのリーダーがまとめ、管理者が目を通し、センター長が作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、昨年6月から2ヶ月毎に開催している。地域の民生委員・自治会副会長・地域包括支援センター職員・入居者・家族・ホーム長・管理者・リーダー・職員が参加し、ホームの取り組み・理念を報告・説明し、遠慮のお誘いや、折り紙のボランティアの希望、ホーム便りを自治会で回覧するなどの要望や意見をいただき、そこでの意見をサービス向上に活かしている。会議を通して、更に地域とのつながりができてきている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に相談・苦情の窓口を明示し、苦情箱を設けるなどして、家族などが意見や、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部へ表せる機会を設けているが、申し立てはない。面会時声かけし、話しをしていただけるような雰囲気づくりをしている。家族会がある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設時に会社側でホームの説明を行い、地域の方々に理解していただくよう努めた。その後自治会に入会し、夏祭り・防災訓練に参加したり、子どもたちをホームに招きクリスマス会を行うなどしている。5周年記念に、ホームの内覧会を行い地域の方々に来ていただいた。運営推進会議の開催により、更に地域の方々とのつながりが増え、折り紙のボランティアをしてもらったり、お茶をいただいたり、外食向きの美味しいお店を紹介していただくなど、交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりと楽しく自由に、その人らしくあたりまえの生活ができるよう支援していく」の法人理念のほか、「目くばり・気くばり・心くばりと笑顔で入居者本位のケアサービスに努める」をホーム独自の運営理念としている。	○	今後更に、地域密着型サービスの意義を職員全員で再確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化などを理念に盛り込むことにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、1日3回業務開始前に全員で理念を唱和し、理解・共有を図り、実践に向けて取り組んでいる。2ユニット共有の事務所に大きい文字で理念が掲示されていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時、会社側でホームの説明を行い、地域の方に理解いただくよう努めた。その後自治会に入会し、夏祭りや防災訓練に地域の方と一緒に参加したり、クリスマス会に子どもたちをホームに招いたりしている。散歩の時に、婦人会の方の声かけでお茶をご馳走になったり、踊りを披露していただいたりと、生活しながら自然に交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員から意見を募り、それをユニットのリーダーがまとめ、管理者が目を通し、作成した。前回の外部評価の要改善点については、玄関周りに関しては表札を検討し、その他はホームとして少しずつ取り組んでいるが、現状は職員の退職等もあり対応が厳しい状況でもある。	○	定例で行う職員の会議等で運営者・管理者・職員が評価のねらいや活用方法について共通理解するよう努め、一つひとつの点検過程を大切にし、サービスの向上に繋げることを期待したい。外部評価の結果を職員会議や運営推進会議で報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための検討をしていくことに期待したい。

今泉ケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、昨年の6月から2ヶ月毎に開催している。地域の民生委員・自治会副会長・地域包括支援センター職員3名・入居者・家族・ホーム長・リーダー等がメンバーとなり、ホームの取り組み・理念を報告・説明し、遠足のお誘いや、折り紙のボランティアの希望、ホーム便りを自治会で回覧するなどの要望や意見をいただき、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	○	今後、運営推進会議で外部評価への取り組みや結果を報告し、意見を伺い、サービスの質の向上に活かすよう期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員は、運営推進会議に参加し、ホームも入居者の空き状況を報告する等連携をとっているが、ホームの職員が直接市の担当者と行き来する機会はない。市事業の受託は前向きに考えている。	○	ホームとして、市の広報誌等により市の事業内容を把握したり、ホームを市にアピールするなど積極的に市と連携をとりながら、市と共にサービスの質の更なる向上のための取り組みを進めていくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームは毎月定期的に、入居者の暮らしぶりや、身体状況、行事への参加などについて、ホーム便りとともに家族に文書にて報告している。金銭管理に関しては、家族の訪問時に報告して確認サインをもらっているが、定期的ではなく頻度が少ない。職員の異動に関しては報告していない。	○	金銭管理の報告に関して、確認のサインが少なく不定期であるので、例えば金銭管理簿に確認のスペースを設けたり、サインではなく印をいただくなどの工夫もしながら、定期的に報告することを期待したい。職員の異動に関しての報告や新しい職員の紹介などを、ホーム便りに載せたり、それ以外の方法で家族に伝える等の検討を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情の窓口を明示し、苦情箱を設けるなどして、家族などが意見や、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部へ表せる機会を設けているが、申し立てはない。面会時声かけし、話しをしていただけるような雰囲気づくりをしている。家族会がある。	○	家族等は、入居者がお世話になっているという遠慮から、ホーム側に本音の部分伝えにくいということも考えられるので、今回の外部評価の家族アンケートの集計結果を参考にしたり、家族会等で自由に意見を言っていたり、無記名のアンケートを実施するなどして家族の意見や不満などをいただき、それらを運営に反映させるなど、更にホームが良くなるための取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時からの職員もいるが、離職していく職員も少なくはない。身体的に腰痛などで業務遂行が困難であったり、待遇面で離職することもある。特に現在は職員が不足し、日勤帯が2人の時もある。それによって入居者へダメージがないよう、配慮はしている。	○	運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよう、職員が生き生きと働ける環境づくりの構築や、待遇面も含めた取り組みを期待したい。異動や離職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎの面での最善の努力を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、研修係が企画・運営・講師となり、月1回褥瘡などテーマを決めて実施している。外部研修は、一部の職員は受講しているが人手不足もあり全員の参加は難しい現状である。管理者は、県で行っている認知症介護実践研修の意義は大きいと捉え、職員にも参加させたいと考えている。	○	管理者や職員を段階に応じて育成するための研修などの実施や外部研修の受講を計画的に進められるよう、また働きながらトレーニングをしていくことを進められるよう、運営者のバックアップに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者個人的には同業者と交流はあるが、地域の同業者との交流の機会はない。グループホーム協議会に入会し、研修会等を通して同業者との交流の機会は何度かあった。	○	管理者や職員が地域の同業者と交流する機会をもち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていくためのネットワークづくりへの運営者のバックアップに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、ホームに足を運んでいただき、見学したり入居者と交流を図っていただくようにしている。訪問調査当日も、家族・ケアマネジャーと一緒に見学に来た方（ご本人）がおり、居室を案内し、長い時間説明を行っていた。デイサービスを利用していた近隣の方が入居したケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器洗いや料理の味付け、盛り付け、掃除、洗濯物たたみ、ごみ捨てなどの家事全般や、絵が得意な方には内覧会の際に展示した作品を作っていたいたり、歌が好きな方には歌っていただいたり、ホーム独自の体操を職員と一緒にやるなど、入居者と職員は一緒に過ごしながらかたまりを共にして過ごしている。敷地の隣の畑での野菜づくりに関しては、職員の手不足もあり、入居者の安全を優先して現在は中断している。	○	職員が充足したあかつきには、野菜づくりを復活させるなど、更に入居者と共に過ごし支えあう関係の構築を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望は、普段の会話や生活歴の把握やミーティング、家族などに伺うなどして、その把握に努めている。困難な場合は、職員間でミーティングを行い情報を交換しながら本人本位に検討している。外食や出前などの食事に関する希望が多い。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の担当制を取り入れており、常勤は2名・パートは1名を受け持ち、本人・家族と話し合ったり、月1回の会議で職員間の情報を持ち寄り、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方を検討しながら、入居者本位の介護計画を作成している。最終的にユニットの介護計画作成担当者やケアマネジャーが作成している。長い年月の中で家族に、「お任せします」と言われる現状もある。	○	入居者本位の介護計画を作成するにあたり、本人を良く知る家族や関係者の参画が重要であることを伝え、意見や要望気づきなどを出していただきながら、本人本位の計画作成に引き続き取り組んでいくことを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画作成している	定期的には3～4ヶ月に1回の見直しを行い、変化が生じた場合は、本人・家族・関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームと同じ敷地内では、デイサービス・訪問介護・居宅介護支援・福祉用具貸与などの事業を行っている。デイサービスの利用者が入居し、ベッドなどのレンタルも可能である。通院介助も職員が対応しているが、今後のことは家族会の時に話し合いを持つ予定である。ホーム側でショートステイを実施する体制はあるが、看護師の職員が不在のため実施には至っていない。		

今泉ケアセンターそよ風


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の希望を大切にし、それぞれのかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関での受診はほとんど無いのが現状である。心身の機能が低下した場合でも、認知症があるという受け入れが困難な現状もある。	○	市の医師会などに相談するなどして、在宅医療に応じてくれるなど入居者の状態に応じた適切な医療が受けられるような医療機関との連携体制を築いていけるよう、検討していくことに期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族から希望を聞いているが、職員数やかかりつけ医との関係からホームでの対応は困難な現状である。職員の充足、理解ある医師の確保などの課題を認識し、将来的には重度化した場合や終末期に向けた対応をしていきたいと考えている。	○	重度化してもホームに住み続けたいという希望があった時の対応について、介護保険制度を見据えながら、在宅支援医療や訪問看護ステーションとの契約を利用するなどの検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	プライバシーを確保するため、ホームへの訪問は家族中心にし、「そよ風たより」を外部に配布する時は、入居者の顔を載せない配慮をしている。職員は、生活していく中で入居者に対し尊敬の念で接し、「・・ちゃん」と呼ばないようにしているが、希望があれば応じている。外部評価訪問調査では、記録など、本人・家族の了解のもとに提供していただいた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のその人らしい暮らしを支えるため、起床・入眠・食事・入浴・レクリエーションなど、一人ひとりのペースを大切にしながら支援している。外出や買い物、散歩なども希望を聞きながら、希望に添うよう支援している。		

今泉ケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、朝食は職員が作り、日曜日は1日を通して入居者主体で作れ、昼食と夕食は併設のデイサービスセンターの厨房で作ったものを提供している。外食や出前も、定期的に希望を聞きながら取り入れている。食事の準備や、盛り付け、片づけなどは入居者と職員が一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂の好きな入居者が多く、ほとんどの方は毎日13時から職員1名～2名の見守りや支援のもとで入浴している。各ユニットに浴槽が2つずつあり、気の合った入居者同士が入ることもある。順番は、男性優先のユニット、男女交代で入るユニットなどそれぞれ異なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行っている	水彩画・歌・ゲーム・ぬり絵・パズル・積み木・一日おきの買い物・暑い時期と寒い時期を除いた近隣の散歩など、一人ひとりの役割や楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。ボランティアによる踊り・紙芝居・読み聞かせ・マジック・折り紙なども楽しみごとになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の中だけで過ごさないように配慮している。散歩は日常的に40分くらいかけ、車椅子の方も一緒に出掛けている。おおまかな外出の年間・月間行事があり、グリーンパークや真岡井頭公園などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは2階にあり、1階の玄関は鍵はかかっているが、各ユニットの戸は、開設間もない時期に出かけられてしまったため、それ以降は本人・家族に説明のうえ施錠している。また、風呂場には洗剤などもあるため施錠している。居室の窓はストッパーがかかり全開は出来ないようになっている。ソワソワしたりして外出傾向を察知した場合、職員と一緒に外を歩くこともある。	○	入居者が外に出たくなる理由や場面や行き先などを知り、一人ひとりの外出傾向を把握し、近隣の方の協力への働きかけなどの取り組みをしながら、鍵をかけるなくてもすむような環境がつけられていくことを期待したい。

今泉ケアセンターそよ風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練等は、デイサービスセンター等も含めての事業所全体として1回行い、ホームとしては年2回行っている。地区の防災訓練にスタッフが参加し、入居者が防災の標語を作った。消防署との直接連絡システムを取り入れている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食と夕食は、デイサービスセンターの栄養士の管理のもと、バランスを考えた献立であり、朝食も含め1日平均1,800キロカロリーで、水分は1.5～2、3リットルの摂取を勧めている。水分量と毎食の摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃は毎日入居者と職員で行い、自然換気も毎朝行っている。リビングには季節の花を飾り、廊下には入居者手づくりの季節ごとの絵が飾られている。日差しの調節はカーテンをひくなどして配慮している。リビングのソファのほかに、玄関周りや廊下にも椅子がさりげなく置かれ、入居者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、備え付けのカウンターには家族の写真を飾ったり、お気に入りの物を置いたりして居心地よく過ごせる居室となっている。ベッドはホームが用意すればリースとなるが、ご本人の持ち込みもある。造りつけのタンスはホームで用意したものである。カーテンは持ち込みとなるが、退居の時にそのまま置かれ、後の方が使用することもある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。